

2022. 1. 17

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

まだ寒い林、でも着々と進む春への準備 ムラサキケマンの葉の「季節逆転現象」



前回のモニタリング活動は1/10でした。
前の週に雪が降った後でしたが、ムラサキケマンはしっかりと雪の中から葉を覗かせていました（上の写真左）。一週間後の1/17には、降雪なんてなかったかのように本格的な展葉（右の写真）を見せています。この時期のムラサキケマンはまだ葉に葉緑素ができていないので葉色は赤茶色です。でも、その隣で緑色の葉も観られます（赤丸囲みの部分）。もっと暖かくなってきてからの姿です。この緑葉は、実は去年の12月から見られたのです。ということは、昨年末は暖かい気温で、ムラサキケマンはもう春が来たと感じたのでしょう、そのころに春の緑葉を伸ばして、本当の冬の寒さにさらされたこの10日間ぐらいいは、やっぱり冬の赤茶色の葉を出し直したという「季節逆転現象」が起きているのではないかと思います。

ニリンソウ、蕾を持つ



←
大門
地区
東の
くぼ
地
→
城址
地区



ニリンソウの1年間（大門地区、2016年～2021年 ●＝開花 赤塗つぶし＝本格的開花）

[illegible]

この表は2016年から2021年までのモニタリング活動で観察してきた大門地区のニリンソウの動きをまとめたものです。マスが赤く塗りつぶされていて●マークが入っているところがニリンソウの本格的開花期です。こうして記録を見返すと、本格的な開花期を迎える前に、ニリンソウは早いもので前年の11月からぽつりぽつりと咲いていることが分かります。しかし、2016年頃までの「冬に咲いている」ニリンソウは毎年同じ場所で咲く「特殊な早咲き株」でした。それが、2017年には「早咲き以外にも」とのメモのように、あちこちで開花が観られるようになりました。前年よりも開花期間が長くなっていた2019年頃からこの傾向は顕著になっています。今後何年も続けて観察しなければ確かなことは言えないのですが、40年前に保護活動が始まったころのニリンソウ開花期は3月下旬だったことを思えば、近年の開花は早まっています。

↓冬枯れの下でのモニタリング、でも今のうちにやるべきことも↓



↑ 生物多様性保全にご協力をお願いする札が木の葉の陰に隠れてしまっているのを直したり、
← 園芸種のキバナオドリコソウが生え広がっているのを取り除いたり、春のニリンソウ月間に向けて、モニタリングの参加者も手入れ・環境整備を行いながら活動を進めています。

*** 1~2月のモニタリングは 1/31、2/7、2/14、2/21 9:00 ため池公園スタート**

***ニリンソウ自生地保護活動** **ニリンソウシーズン前の手入れ活動** **2/20 10:00 大門観察**
台集合 **こちらも参加大歓迎** **問合せ：赤塚公園サービスセンター** **03-3938-5715**